

学力向上に効果のある取組事例

豊後大野市立三重第一小学校

① 小学校教科担任制の推進

取組の具体①

○3年次になる教科担任制を、今年度も5・6年で行っている。

これまで、5・6年部の週案の作成に毎週30分程度の時間を要していたが、今年度は更にシステム化し、教科担任制担当職員が3週先の週案を作成し、変更点のみを確認するようにしている。余剰の時間を、児童の困りがないか、生徒指導上必要な支援はないか等、5・6年児童の様子を各教科担当から出し合うようにし、よりきめ細やかな指導になるようにしている。教科に関しては、国語・算数・社会・理科・英語・音楽・図工・家庭・体育・書写を教科担当が担い、道徳・総合・特活は学級担任が担うようにしている。5・6年の学級担任だけでなく、多くの教職員で子どもたちの学びを見取り、更に自信を付けさせる指導を行っている。

教科担当は、各々の専門性を活かす事と同時に、iPadを効果的に活用できる技能の向上も必要となる。教科担任制担当職員が中心に随時研修を行い、各教科担当のみならず、全教職員にも技能の伝達を図っている。教科担任制に関するアンケート結果(2021年度1学期)は児童92.3%、保護者97.0%の肯定率となっている。



英語科 英語担当とALTの複数指導体制



音楽科 iPadの効果的運用

取組の具体②

○高学年の教科担任制をもとに、3・4・5・6年の算数では、習熟度別指導を行っている。

児童の実態・保護者の願い・教職員の働きかけをもとに、各学級をサクスコース(標準コース)とチャレンジコース(基礎コース)の2コースに分けている。

チャレンジコースでは、少人数で基礎・基本を定着させ、児童の意欲を高めたり自信をつけさせたりすることをねらいとしている。単元によりコース選択を随時行い、チャレンジコースを経験した児童は、サクスコースでも学びを充実させることができている。また、サクスコースを経験した児童は、チャレンジコースでは、ペア・グループ学習の中で、教え合いや学び合いの中心になり、思考や技能を更に高めている。

3・4年にとっては、習熟度別指導のスタイルが、児童にとって高学年における教科担任制への見通しにもつながっている。また保護者の教科担任制への肯定率・期待度の高さは、この算数の習熟度別指導を含めて、教科担任制の効果を実感しているところが大きい。



算数科 サクスコース(標準コース)



算数科 チャレンジコース(基礎コース)